

FACEsWorkshop2024

日本頭蓋顎顔面外科学会第20回学術講習会 開催後記

学術委員長 今井啓道（東北大学形成外科）

さる2024年11月16日に『FACEs Workshop 2024』第20回学術講習会を行いました。今回は「CADと実体模型を用いた下顎再建シミュレーション」と題し、顎顔面再建をテーマとした実習型講習会を企画しました。初めてのテーマでありましたが、募集直後から多くの応募を頂きました。本当にありがとうございました。施設の関係上、多くの受講生を受け入れることができず、残念ながら締め切りに間に合わず受講できなかった皆様も多くいらっしゃったと思います。大変申し訳ありませんでした。今回は20名の募集に対し24名の受講生を迎え、午前中はソラシティカンファレンスセンター、午後は日本大学歯学部補綴科実習室に場所を移し講習会を行いました。

Faculty

[コースディレクター（学術委員）]

去川俊二（埼玉医科大学国際医療センター 形成外科）

[特任講師]

勅使河原大輔（康正会クリニック 歯科補綴科）

[支援]

大山哲生（日本大学 歯学部補綴科）

[学術委員]（五十音順）

秋元正宇（日本医科大学 形成外科）

今井啓道（東北大学 形成外科） 委員長

宇田宏一（リラ・クラニオフィシャルクリニック）

檜山和也（長崎大学 形成外科）

元村尚嗣（大阪公立大学 形成外科）

森下格（天神矯正歯科クリニック 矯正歯科）



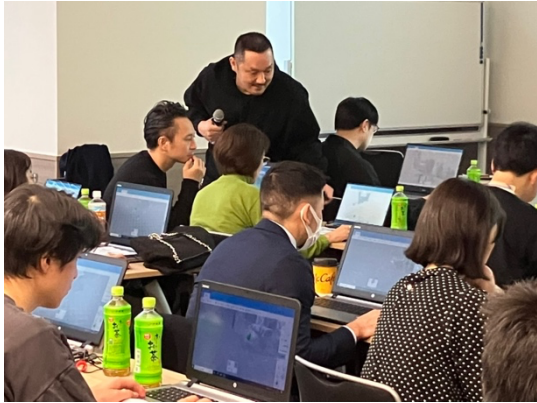
去川先生



勅使河原先生

1. CADを用いたシミュレーション

今回のコーディネーターは去川先生と勅使河原先生です。「全ての顎再建患者に顎義歯」をモットーに顎再建に取り組まれているお二人から、そのノウハウを余すことなく伝授して頂きます。午前中は「3D Builder」というフリーソフトの解説と実習です。去川先生が



ら顎義歯装着に必要な下顎再建について講義があり、勅使河原先生からソフトの操作方法について実際の症例の下顎骨データを用いて解説して頂きます。受講生は自身のPCで操作しながら、勅使河原先生に必死についていきますが、次第に受講生から救いを求める手が上がってきます。このソフトに詳しい秋元先生もサポートに加わり、一人ひとりに対応していきます。

CAD上でシミュレーションする手順を苦労しながら一通り行ったところで、美味しいサンドイッチでリフレッシュして、さあ、午後の実習に移動です。

2. 実体模型でのシミュレーション

各デスクに、集塵ダクトや電動リユーター、LED照明など、工作に必要な全てが揃った素晴らしい日本大学歯学部補綴科実習室をお借りして、午後の実習が始まりました。午前中の知識を基に、準備された下顎骨腫瘍モデルを用いて各々が作業します。勅使河原先生



から作業の手順の説明を受け、グルーガンで顎舌骨筋線をマーキングし、糸鋸で腫瘍部分を切除、腓骨モデルを分割して切除部を再建します。この際、顎舌骨筋線を考え顎義歯装着に適し整容性も考慮した配置を受講生がそれぞれ考え、デンタルワックスなどで仮固定します。モデルは3種類あり、受講の皆さんはどれかを選んで作業を行っています。作業にあたって、勅使河原先生のみならず、本実習室をお貸しいただいた日本大学歯学部補



綴科の大山先生と教室員の先生から親身な個別指導を頂き、受講生は着々と下顎骨再建を進めていきます。完成した再建下顎骨モデルを用いて、歯科用レジンで腓骨骨切りガイドを作成し、作業は終了です。最後に、受講生が作った再建下顎骨を一つ一つモニターで映しながら、勅使河原先生に講評して頂きました。勅使河原先生は、それぞれの再建下顎の

特徴を説明しながら、長所と問題点を的確に優しく評価して頂きました。

最後に

今回は初の試みで、顎義歯装着に必要な下顎骨再建を補綴科の先生から学ぶ講習会を企画・実施しました。午後の実習で実際に作業を行うことで、午前中のPC上での話が実体験として理解し学べたのではないのでしょうか。終了後の満足そうな受講生の姿を見て、開催側の我々はホット胸をなで下ろしました。今回は時間の関係上インプラントを前提とした再建は深く議論はしませんでした。今回紹介した方法は、多くの施設で適応しやすい方法であったと思います。



使用した全ての薬剤、機材をお持ち帰りいただくため、去川先生オリジナルデザイン! の巾着袋と受講証明書を受講生全員にお配りして解散となりました。

さて、レジン硬化材は発火性があるため、飛行機でお帰りの受講生は持ち帰れないことが分かり、置いていくことになりました。皆様、ご迷惑をおかけいたしました。

最後に、今回多大なご支援を頂いた日本大学歯学部補綴科教室員の皆様、設営・撤収などにお手伝い頂いた千葉大学形成外科の先生、そして何よりも講師を引き受けて頂いた去川先生、勅使河原先生にあらためて感謝しつつ、第20回学術講習会の開催後記を終えたいと思います。



(文責 今井 啓道)

